



令和8年度全国学力・学習状況調査 本校の結果

令和8年4月20日を皮切りに、全国の中学3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の本校の結果、及び今回の調査における課題と改善の方向についてお知らせいたします。

今回の「全国学力・学習状況調査」では、国語、数学、英語を実施しました。個別の結果については返却しております。分析にあたっては、以下のように全国平均との差を「3ポイントの幅」で区切って表現しておりますので、参考になさってください。

- +3.1ポイント以上 ⇒ 「全国平均を上回っている」
- +3.0ポイントの範囲内で全国平均を上回る ⇒ 「全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回る」
- 全国平均と同じ ⇒ 「全国平均とほぼ同程度」
- -3.0ポイントの範囲内で全国平均を下回る ⇒ 「全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る」
- -3.0ポイント以下 ⇒ 「全国平均を下回っている」

なお、この調査結果は、学校における教育活動の一側面であり、教育活動全体の評価ではないことにご留意願います。

1 学力調査の結果・課題と改善の方向

国語

本校の結果概要

調査における課題

改善の方向

項目	平均正答率		
■言葉の特徴や使い方に関する事項	・全国平均を下回っている。	・文脈に即して漢字を正しく使い、文法のルールについて理解しているかどうか。	・単なる暗記ではなく、文脈や用例に即した書字指導を日常的に徹底する。
■話すこと・聞くこと	・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回る。	・話し合いの中の発言を整理し、話し手の目的や必要に応じた質問を通して話の内容を的確に捉えているかどうか。	・相手の立場や主張を尊重しながら、論理の矛盾や根拠を問い直す対話活動を強化する。
■書くこと	・全国平均を下回っている。	・表記を確かめ、読み手の立場に立って全体の文章構造を客観的に整えることができるかどうか。	・推敲の活動を通して、観点（主述の一致、表記ミス、段落構成等）を明確にしていくことで文章全体を整える力をつけるようにする。
■読むこと	・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回る。	・文章全体と部分との関係に注意しながら、文章の展開の意図や段落相互の関係を構造的に捉えることができるかどうか。	・登場人物同士の言動の関係や、段落相互の関係が、文章全体の展開や構成においてどのような意図や意味をもつのかを客観的に解釈する授業展開を取り入れる。

国語は、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の項目が全国平均よりやや上回っていたものの、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」の項目が下回っていました。



数 学

本校の結果概要

調査における課題

改善の方向

領 域	平均正答率		
■数と式	・ほぼ同程度であるが、やや上回る。	・統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうか。	・数に関する事象を考察する場面で、成り立ちそうな事柄を予想し、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考える機会を設ける。
■図形	・ほぼ同程度であるが、やや下回る。	・具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうか。	・図形の性質を考察する場面で、成り立つと予想した事柄について、与えられた条件を整理した上で、論理的に考察し、それを数学的に表現する機会を設ける。
■関数	・全国平均を下回っている。	・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうか。	・関数関係を見いだし考察する場面で、事象を理想化したり単純化したりすることによって、事象の中から取り出した二つの数量の関係を既習の関数とみなし、それを表、式、グラフと関連付けて理解できるようにする。
■資料の活用	・全国平均を下回っている。 	・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうか。	・不確定な事象をデータに基づいて考察する場面で、事象を数学的に解釈することに加え、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する機会を設ける。

数学は、「数と式」の領域が全国平均よりやや上回っていたものの、「図形」の領域が全国平均よりやや下回り、「関数」「資料の活用」の領域が全国平均を下回っていました。

英 語

調査における課題

改善の方向

・日常的话题について、自分がしたいことを話すことができるか、またその理由を話すことができるか。

・日常的话题について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるか。

・社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを書くことができるか。

・自分の考えを書いたり、話したりする際に、読み手や聞き手に伝わるよう、理由を示せるように練習する

・日常的话题について短い文章を読み、概要を捉えることができるようになる練習する。

・社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、自分の考えと理由を表現できるように練習する。

A B C

英語は、コミュニケーションに係わる項目は全国平均を上回っていたものの、社会的な話題などの文章を読んで、要点を捉えて自分の考えや気持ちを文章にすることや、相手にわかりやすく理由を説明する問題では全国の平均を下回っていました。

2 質問紙調査から

本校のアンケート結果を全国平均と比較したところ、多くの項目で全国を上回る結果が見られました。特に「学校生活の満足度」「学習への意欲」「授業の理解度」において顕著です。一方で「家庭や地域との関わり」「授業内でのICT活用」についてはやや低い傾向が見られました。

■全国平均より数値が上回っているもの

番号	項 目
9, 11, 13, 14, 16, 20	・ 学校生活の心理的安全性と自己有用感の高さ 「学級で違う意見を言っても否定されない雰囲気がある（全国との差 +16.4%）」、「先生が自分のよいところを認めてくれている（全国との差 +12.8%）」、「進んで困っている人を助けている（全国との差 +10.6%）」、「悩みごとを先生にいつでも相談できる（全国との差 +9.6%）」、「違う意見について考えるのは楽しい（全国との差 +11.0%）」など、他者を尊重し支え合う温かい学級風土や、高い自己肯定感が全国平均を大きく上回っている。
26, 29	・ 家庭の読書環境と読書習慣の充実 家に本が「501冊以上ある」家庭が（全国との差 +8.3%）と、全国に比べて文化的環境が非常に豊かである。また、平日に読書を「全くしない」生徒はと全国との差が-5.8%と、本に親しむ習慣が根付いていることが伺える。
36-4, 46, 47, 49	・ 主体的・対話的で協働的な学びの定着 「友達と協力しながら課題解決に取り組んでいる（全国との差 +19.4%）」、「総合的な学習の時間に課題を立てて発表する活動に積極的に取り組んでいる（全国との差 +23.3%）」、「学級活動で互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている（全国との差 +20.2%）」、「スライド資料を作成できる（全国との差 +19.4%）」など、発表や合意形成を伴う探究的な協働学習において、高いスキルと実績を示している。
62, 75, 78, 79	・ 授業内容（数学・英語）への理解度と発信型言語活動の推進 「数学の授業内容がよく分かる（全国との差 +18.6%）」、「英語を使う機会が十分にある（全国との差 +12.8%）」、「生徒同士で英語の問答や意見交換をしている（全国との差 +21.0%）」、「自分の考えや気持ちを英語で書いている（全国との差 +23.2%）」など、対話やアウトプットを重視した授業の成果が生徒の自信と高い授業理解度として表れている。

■全国平均より数値が下回っているもの

番号	項 目
2, 3, 4	・ 家庭での就寝・起床時刻の不規則さ 就寝・起床ともに、生活リズムの定着率が全国・全道平均を下回っており、家庭での基本的生活習慣の確立が課題となっている。 ・ スマートフォンや動画の長時間視聴 平日にスマートフォンやタブレットでのSNS利用、動画視聴時間が1日「4時間以上」に達する生徒の割合が「46.8%」となっており、全国との差が+18%（多い）となっている。 この二つの結果は、生活リズムの乱れを誘発している最大の要因とも考えられるため、御家庭で利用ルールの見直しについて検討していく必要があるといえる。
35	・ 過年度（1・2年時）における日常的な授業内ICT活用頻度の少なさ 日常における授業の場面でICTを「ほぼ毎日使用していた」と答えた生徒の割合が全国より少ない。しかしながら、スライドを用いた発表、資料作成などのスキルは高いため、日常的な授業での利用という側面に関して、授業内容の検討をする必要がある。



今後は、すでに完成されている高い「探究・対話力」を活かし、学校外（地域の文化施設、芸術活動、地域の大人）とつながるキャリア教育プログラムを積極的に展開します。そして、「いま学校で主体的に学んでいることが、将来の夢や社会にどうつながっているか」を子どもたち自身が実感できるような、「社会に開かれた主体的な学習環境づくり」を推進していきます。

11月の教育活動

日	曜	主な予定
1	日	
2	月	英検IBA 職員会議(完全下校・部活動休養日)
3	火	文化の日
4	水	ランチルーム給食 4組
5	木	
6	金	得点通知表配付
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	学力テストC(3年)
12	木	
13	金	学校公開日・2学年PTA(視聴覚室)
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	委員会・局会・代表委員会
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	勤労感謝の日
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	学校公開日・1学年PTA(視聴覚室) 子育てテーブル(視聴覚室15時～16時)
28	土	
29	日	
30	月	

※詳細は月行事予定をご確認ください。

◆得点通知表配付について◆

定期試験③の得点通知表となります。今回の試験は5教科50点満点です。平均点を気にされることも多いと思いますが、大事なことは「目標の点数」に達しているかどうか。

3年生はもちろん、1,2年生もこの機会に「進路」について、食卓での話題にしてみてください。

がんばりました!

～2 学年PTAへのご参加、お待ちしております～

11/13(金)は2学年のPTA集会となっております。**15時開始**です。宿泊学習や先日行われた学校祭の様子を映像でご覧いただけます。**11/6(金)**までに出席をすぐーのアンケートにて、ご回答をお願いいたします。

◆期末懇談のご案内◆

12月3日(木)～9日(水)の5日間、2学期の「期末懇談」が実施されます。正式なご案内は11月上旬頃に配付の予定です。ぜひ、お時間を作っていただき、ご来校いただければと思います。

特に3年生は受験校や進路確定の大切な懇談となります。よろしくお願いいたします。

～1 学年PTAへのご参加、お待ちしております～

11月27日(金)は1学年のPTA集会となっております。**「10時～11時」**の時間帯で行います。2年生同様、映像がご覧いただけます。急に参加が可能になった場合も大歓迎です。



家庭で話そう!

ネットいじめの現実と対策

「ネットいじめ」と聞くと、どこか遠い世界の話に感じるかもしれませんが、溶け込んだ今、子どもたちはいつでもどこでも、誰かの言葉に傷つく可能性があります。しかも、ネット上のいじめは目に見えにくく、気づいたときには深刻化していることも少なくありません。

ネットいじめの特徴は、匿名性と拡散力です。悪意あるコメントや画像が一瞬で広まり、消すことが難しく、被害者の心に長く残ります。また、加害者も「軽い冗談のつもりだった」「みんながやっていたから」と罪の意識が薄いままだりしてしまいうケースもあります。

保護者としてできることは、まず「ネットいじめは現実には起きている」という認識を持つこと。そして、子どもが安心して話せる環境をつくることです。「何かあったら話してね」と日頃から声をかけておくことで、子どもは困ったときに保護者を頼りやすくなります。また、家庭でネットの使い方やマナーについて話し合う時間を持つことも大切です。

「人を傷つける言葉は、画面の向こうにも届く」「見て見ぬふりも加担になる」といった価値観を共有することで、子どもも自身が加害者にも被害者にもならない力を育てられます。

学校や行政も対策を進めています。が、家庭での対話こそが、子どもを守る最前線です。ネットいじめは、家庭で一緒に考え、向き合うべき現代の課題です。まずは今日、子どもと「ネット上で嫌なことがあったらどうする?」と話してみませんか。